

“しごと観育成” 研究会の活動と調査に関する新聞記事

「日本教育新聞」 2008年7月14日

将来就きたい仕事 「考えている」75%

高校生の75%が将来就きたい仕事について考えており、就きたい仕事を「決めている」生徒も59%に上る。そんな調査結果が明らかになった。数年前からニート、フリータ

“しごと観育成” 研究会が調査

ーの問題が心配されてきたが、高校生の職業観に変化が起きているようだ。

「13歳のハローワーク」公式サイトが主催する“しごと観育成”研究会が昨年12月から今年2月にかけて、東京や大阪など16高校の生徒6000人を対象に調査した。同研

ニート、フリーター離れ 進む!?

究所では「想像以上に職業を意識している高校生が多かった。将来を真剣に考える機会が増えたのでは」と話している。

仕事に対する意識を聞いたところ、「ある程度の年齢になって、仕事をしないと肩身が狭い」「仕事をするのは当たり前前(義務)だ」と答えた生徒が60-70%近くに上り、「ほかの人より努力して、仕事ができる人になりたい」という考えを持つ生徒も70%いた。

また、仕事に対して肯定的な展望を持っている生徒は、そうでない生徒に比べて、「もっと学校の勉強を頑張りたい」「もっといろんなことを学びたい」という意欲が20%近く高かった。